

【山崎主宰の俳句】

バチカン

山崎 聰

さくらほろほろかの世もこの世もなく
春昼のひとりっきりの鼻の先
バチカンの薄暗いところから蝶
あつまって笑って別れ著莪の花
きのうと同じいちにちが過ぎみなみかぜ
八十八のわれも男の子ぞ鯉のぼり
さりながら五月五日の晩ごはん
東京でいちにち遊びさくらんぼ
はつなつのすこし弛んだぼんのくぼ
こんな日もたまにはいいかほとほぎす